

第4次松本市男女共同参画計画 各事業の取組み状況について

基本目標(施策分野)別事業数・予算額

(表1)

基本目標(施策分野)	第1分野	第2分野	第3分野	第4分野	第5分野	第6分野	計
事業数	9	53	31	23	12	5	133
予算額	0千円	13,544,673千円	1,163,667千円	138,848千円	5,430千円	0千円	14,852,618千円

組織別・基本目標(施策分野)別事業数

(表2)

No	部	課	事業数						計
			第1分野	第2分野	第3分野	第4分野	第5分野	第6分野	
1	住民自治局	人権共生課	3	4	6	1	2	5	21
2		地域づくり課	1			1			2
3		市民相談課			1				1
4	総務部	行政管理課	1						1
5	財政部	契約管財課		1					1
6	危機管理部	危機管理課	1		1				2
7		消防防災課	1						1
8	健康福祉部	福祉政策課(福祉政策課医務担当)				1			1
9		障がい福祉課			4				4
10		高齢福祉課		3	4	1			8
11		健康づくり課		1		13			14
12	こども部	こども育成課		14	2	1			17
13		こども福祉課		1	13	2			16
14		保育課	1	10					11
15	環境エネルギー部	環境・地域エネルギー課					4		4
16	産業振興部	商工課		4					4
17		農政課	1	5					6
18		労政課		10			1	1	12
19	教育部	教育政策課					1		1
20		学校教育課(学校支援室)			1	2	2		5
21		生涯学習課	1		1		2		4
22		中央図書館			1				1
計	9	22	10	53	34	23	12	5	137

※1事業を複数の組織(課)で実施している事業があるため(表1)と(表2)の合計数値は一致しません。

基本目標(施策分野)別事業実施状況

	総事業数	実施	未実施	一部未実施	休止	廃止
第1分野	10	10	0	0	0	0
第2分野	53	44	2	2	0	5
第3分野	34	31	1	1	0	1
第4分野	23	19	2	0	1	1
第5分野	12	9	2	1	0	0
第6分野	5	5	0	0	0	0
合計	137	118	7	4	1	7

【未実施事業】

- 1 私立保育園等施設整備補助金事業(第2分野)→補助対象園なし
- 2 身体活動維持向上事業(第4分野)→地域支援事業及び国保特定保健指導事象として実施
*以下、コロナ禍による影響
- 3 女性農業者の交流支援(第2分野)
- 4 母(父)と子の集いバスハイク事業(第3分野)
- 5 生活習慣病予防教室(糖尿病予防)(第4分野)
- 6 理工系分野に興味を持つ女子中高生を対象とした出前講座(第5分野)
- 7 女性指導者研修事業(第5分野)

【一部未実施・休止事業】

- 1 就農・経営に関する相談(第2分野)→東京開催はオンライン参加、その他相談は随時実施
*以下、コロナ禍による影響
- 2 農業者講座(第2分野)
- 3 高校生向けデートDV講座(第3分野)
- 4 中学校における職場体験学習と進路相談(第5分野)
- 5 休止:若いときからの認知症予防対策事業(第4分野)

【廃止事業】

- 1 仕事と家庭の両立支援事業(第2分野)
- 2 両親学級(パパとママの教室)(第2分野)
- 3 私立幼稚園就園奨励事業(第2分野)
- 3 就職支援の推進 コワーキングスペース活用型人材育成事業(第2分野)
- 4 商工業分野における女性への支援と新しい働き方の基盤づくり
- 5 コワーキングスペース活用型人材育成事業(第2分野)
- 6 母子家庭等家庭協力員派遣事業(第3分野)
- 7 健康経営企業の拡大に関するセミナー(第4分野)

第4次松本市男女共同参画計画実施状況の各分野の調査結果

※予算額は、当該事業のみでなく、当該事業を含む事業費全体を計上している場合もある。

第1分野 政策・方針決定過程への女性の参画拡大			
担当課:8課	事業数:9事業	R3 予算額	0千円
		R2 予算額	0千円
1 市政等の政策決定過程への参画促進 2 地域・職域組織等における男女共同参画の促進 3 男女共同参画の視点を生かした防災対策の推進			
<p>○ 毎年調査している「附属機関等の女性参画状況調査」の令和3年度の結果は、全体で34.0%と前年度より女性比率が0.6ポイント増加した。附属機関等の数は前年比1機関増の116機関、委員総数は前年比88人減少の2,781人、そのうち女性委員数は945人であった。委員総数は減少しているものの、女性委員の減少が緩やかだった結果、女性比率が上昇したものと分析できる。</p> <p>○ 担当各課においては、ジェンダー平等を社会の前提条件として、あらゆる分野で女性の視点を反映できる仕組みづくりが重要と捉え、男女バランスに配慮した委員構成と、今後より一層、地域や職域組織等において固定的な役割分担の解消を目指し、男女の比率が均衡する方向に変化するように意識改革に取り組み、女性参画の促進をしていくことが必要である。</p>			

第2分野 労働・雇用における男女共同参画及びワークライフバランスの推進			
担当課:10課	事業数:53事業	R3 予算額	13,544,673千円
		R2 予算額	13,383,702千円
1 企業・従業員に対するワークライフバランスの啓発・相談 2 育児・介護に対する支援の推進 3 就職支援の推進 4 農林業・商工業分野における女性への支援と新しい働き方の基盤づくり 5 企業に対するインセンティブの付与			
<p>○ DX・デジタル化を重点戦略として位置づけ政策を推進するため、今までの紙媒体がデータ化され、事業内容の充実はもとより、周知方法について検討していかなければならない。</p> <p>○ 労政課事業の職業・労働相談、勤労者の心の健康相談、労働相談支援事業については、いずれも前年度より減少傾向であった。また仕事と家庭の両立促進事業について例年200千円程度の予算によりセミナーを開催していたが、令和4年度以降は予算なしのため要検討。</p> <p>○ こども育成課の子育て支援事業、保育事業は前年度より利用者数がいずれも増加。病後児保育事業は年間延利用者数が前年度96人から404人と4倍超え、病児保育事業においても同様に前年度773人から1,603人と2倍超えの利用者数となった。</p>			

- 保育課の園運営に関しては、保育士の確保が喫緊と課題となっている。また一時預かり事業については、本来、一時保育が必要なための事業が、待機児童の受け皿となっている。
- 女性センターやトライあい・松本では、今後も女性の起業や資格取得講座等を継続するとともにあらゆる方法で情報発信ができるよう検討していく。
- 農林業分野においては、女性農業者の交流活動及び農村文化の継承を目的とした講座等について、コロナ禍で事業が未実施または一部実施となったものが多くみられた。令和3年度は、就農・経営に関する相談についてオンライン参加が4回と増え、今後もオンライン相談の増加が見込まれる中、新規就農や移住につなげるかが課題である。
- 商工業分野として、起業家への支援では、1年目の家賃補助の拡充に伴い、前年度が46人のところ51人と増加し、新規開業家賃補助についても前年度と比較すると予算ベースで6,870千円の増。またコロナ禍で需要が増えたテレワーク事業所設置支援事業は、すでに目標値を達成。補助制度の拡充、併せてICT活用地域産業振興事業についても業務受注の拡大やスキルアップによりワーカーの収入増に向けて事業を展開していく。
- 女性活躍推進に取り組む優良企業の「えるぼし」認定は松本市の企業として株式会社エランが令和2年12月に取得。長野県内では、16社が認定企業として名を連ねている。(令和3年12月15日現在)プラチナえるぼし認定企業は、未だ長野県内にはない。
松本市は、平成30年度から建設工事総合評価落札方式において、価格以外の評価点として、女性活躍推進に関する取り組み状況(「えるぼし」及び「くるみん」認定)に応じて加点対象としているが、該当する企業がない状況である。

第3分野 男女共同参画の視点からの人権尊重と人権侵害の防止

担当課:10課	事業数:31事業	R3 予算額	1,163,667 千円
		R2 予算額	1,088,359 千円

- 1 男女共同参画の視点からの人権尊重の啓発推進
- 2 犯罪被害防止策の推進
- 3 貧困・高齢・障害・外国人であることにより困難を抱えた人への支援推進

- 女性センターでは、男女共同参画やジェンダー平等に関する各種講座を通年実施しているが、コロナ禍においても開催が可能なオンラインを使った事業を展開していきたい。またコロナ禍により急増したDVなど、講座の内容によっては、講師の担い手不足が課題となっている。
- 性の多様性に関する理解の啓発を積極的に行っていきたい。
- コロナ禍における長期的不況により生活困窮者の新規相談件数は増加傾向にあり、自ら支援を求められない困窮者の早期発見、民間の支援団体との連携強化が課題となっている。
- 多文化共生事業は、令和3年度に策定した多文化共生推進プランに基づき様々な施策を実施、誰もが地域社会の一人として活躍できるまちを目指していく。

- 多文化共生プラザでは、外国人住民の定住化により相談案件も多岐にわたり、複雑な問題を抱えた相談者が増加しているため、寄り添い支援等充実した体制づくりに努める。
- 令和3年度から成年後見支援センターが委託方式に移行し、受け入れ件数は前年比8件減少の47件であった。

第4分野 生涯を通じた男女の健康支援			
担当課:9課	事業数:23事業	R3 予算額	138,848 千円
		R2 予算額	116,689 千円
1 妊娠・出産に関する母子健康支援の推進 2 女性特有のがんへの対策の実施 3 性に対する正しい理解と性感染症予防の啓発 4 ライフステージに応じた生活習慣改善 5 薬物・喫煙への対応の推進 6 自殺予防対策の推進			
<ul style="list-style-type: none"> ○ 赤ちゃん・母子保健等の事業では、養育者の孤立を防ぎ、身体的・心理的・社会的な観点から寄り添った切れ目のない支援を行っている。 ○ 小中学校の現場では、健康づくり課や学校教育課が関係機関及び有識者との連携のもと、性に対する正しい理解や性感染症予防の啓発を実施している。 ○ 子どもの生活習慣改善事業における学校出前講座は、事業見直しのため令和2年度で終了したが、引き続き、学校・公民館等の関係課と課題の共有・連携して取り組むこととしている。 ○ 生活習慣病予防事業は、コロナ禍で申し込みが減少する中、検査結果データをもとに必要な方へ働きかけるように手法を変えて、働く世代への健康知識の普及など今後も健康講座の拡充を目指していく。 ○ 身体活動維持向上事業は、令和3年度から国保特会特定保健指導事業として実施 ○ 令和2年度まで福祉政策課で実施していた、ふれあい健康教室・出張ふれあい健康教室は、地域づくり課で引き継ぎ、ひろば事業は各地区の福祉ひろば事業推進協議会に業務委託し、令和3年度のモデル4地区には地域自治支援交付金を交付。利用者及び支援者の高齢化に伴い、参加者は微減傾向であるが、今後も利用者拡大、担い手育成及び町会での事業展開の推進を図っていく。 ○ 一般介護予防事業は、介護予防講座や介護予防の普及啓発、高齢者サポータースキルアップ講座等を実施しているが、コロナ禍で活動が自粛される中での活動方法が課題である。 ○ 労政課の健康経営企業の拡大に関するセミナー事業は廃止し、今後は企業訪問を主に働き方改革と併せて推進していく。 ○ 自殺対策事業は、第2次松本市自殺予防対策推進計画に基づき実施を継続。コロナ禍での電話相談が急増した。 			

- 人権共生課の各種相談事業は、月によって希望件数のばらつきがあり、全体の傾向として相談件数が増加している。あらゆる方法で情報発信ができるよう検討していく。

第5分野 将来の男女共同参画社会の基盤づくり			
担当課:6課	事業数:12事業	R3 予算額	5,430千円
		R2 予算額	4,630千円
1 青少年等に対する男女共同参画を推進する教育・学習の実施			
<ul style="list-style-type: none"> ○ 青少年に対する女性活躍や科学講座等の取り組みを実施している。講座等の周知方法については、SNS等の活用により効果的な周知方法を検討している。 ○ 中学校における職場体験学習と進路指導では、コロナ禍における職場体験学習のあり方について検討し、事業所で職場体験を実施する一方で、多くの学校が校内で講座型、体験型学習を実施した。 ○ 令和2年度まで紙媒体で配布していた「子供向け環境基本計画ハンドブック」について、令和3年度は冊子を電子化しホームページで閲覧・ダウンロードができる形式に変更した。 ○ エコスクール事業は、前年度より参加者数が増加し、市民の環境に対する意識や関心を高め、環境保全活動につなげていくための事業となっている。また環境教育支援事業として、トライやるエコスクール事業(学校教育課)及び松本版コミュニティスクール(生涯学習課)を活用しながら、環境団体及び民間企業による環境学習プログラムを学校へ紹介している。 ○ 理工系分野に興味を持つ女子中高生を対象とした出前講座や女性指導者研修事業は、新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止となった。 			

第6分野 推進体制の整備・強化			
担当課:1課	事業数:5事業	R3 予算額	0千円
		R2 予算額	0千円
1 推進体制の整備・強化			
<ul style="list-style-type: none"> ○ 第4次松本市男女共同参画計画の推進管理のため、各課における具体的な事務事業の実施状況調査や総括を実施していく。その中で、松本市男女共同参画推進委員会に事業の進捗状況を検証報告するとともに、市民からの意見を反映していく。 ○ 国際社会・国・県・関連機関等の動向や最新情報を把握し、新たな課題や対応策について研究しながら、あらゆる方法で男女共同参画について情報発信を行っていく。また関係団体との連携・協力についても引き続き支援していく。 			